

ス J A P A N

説明責任の重要性確認

設立記念 シンポジウム 社会基盤整備を議論

「シニアエンジニアの豊富な経験と知識を活用した社会基盤ライフサイクルマネジメントに関する調査、研究開発、政策提言および技術・法務・経営サポート活動事業等」を行うことを目的とする「特定非営利（NPO）法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会（略称スリムJapan）」は5日、東京都港区のTKP虎ノ門レジネスセンターで設立記念シンポジウムを開催した。2題の講演の後、「社会基盤整備に関わるコンプライアンス的視点」をテーマにパネルディスカッションを行った。会員など約100人が出席し、今後の社会基盤整備・維持に関しては情報開示に基づく説明責任が重要であることを確認した。



有岡正樹理事長

シンポジウムに先立ち開いた総会で、理事長に有岡正樹立命館大学大学院客員教授、副理事長に阪田憲次岡山大学名誉教

授（日本コンクリート工学会会長、土木学会次期会長）など執行部や組織体制を確認した。会員54人での発足となった。シンポジウムの冒頭あ

いさつで有岡理事長は研究会の概要を紹介。研究会の名称である「社会基盤」について「ライフサイクル」「マネジメント」に関し

て説明し、研究会がそれぞれどのような点に関わるかを述べた。ライフサイクルでは「いまある施設をどうしていくかを、リエンジニアリングという

わゆるマネジメントに替えねばならない。研究会はぜひ専門的に社会基盤を捉え直社会から本当に必要とされる公共事業とは何を見極めてほしい。社時代のニーズにきちんたえらるるようコンプライアンスが定着で仕組みを構築していただきたい」と要請した。パネルディスカッションは阪田副理事長を

概念を用いてReで始まる言葉をベースに議論していく」と語った。

講演は元NHK解説主幹の齋藤宏保中部大学教